令和５年７月７日(金)三沢小学校
児童・保護者・地域×七夕まつり
「短冊に願いをこめて」

令和５年７月８日（土）読売新聞　掲載

七夕 街きらきら

市街地に取り付けられた七夕飾り（7日、深谷市で）

県内では7日、各地で七夕の催しが行われた。皆野町三沢の町立三沢小学校では、全児童24人と保護者らで手作りした七夕飾りが正面玄関にお目見えした。地域住民も協力し、近くの山林から枝ぶりの良い竹を切り出した。短冊に「いつまでも家族と楽しく暮らせますように」と願いごとを書いた5年生の山口唯冬(ゆいと)君は「この会は毎年楽しみ」とうれしそうだった。

深谷市では恒例の「深谷七夕まつり」が始まり、大小のきらびやかな七夕飾りが中心市街地を彩っている。約150店舗の露店が立ち並び、初日から多くの市民らでにぎわった。まつりは9日まで。市は3日間で約20万人の人出を見込んでいる。

企業サービスも

七夕にちなんだサービスを展開する企業もある。ブランド品などのリユース会社「リ・アンティーク」（蓮田市）は、バッグやアクセサリーの買い取りに加え、かつての恋人から贈られたお守りや手紙なども特別に引き取り中だ。「恋の思い出の品を処分できない」という人向けの企画で、近藤俊之社長は「バッグ類を売って得たお金を新たな出会いに生かして」と呼びかける。お守りなどは神社でお焚(た)き上げをする。

利用には宅配便を使い、専用サイト（https://www.enmusubireuse.re-antique.jp/lp/）から申し込む。14日まで。リユースによる収益の一部は、子どもの貧困問題に取り組むNPOなどへの寄付に充てるという。

七夕飾りにつるした短冊を見上げる子どもたち（７日、皆野町で）